

阿寒町 勝水さん 自然栽培の圃場



6月19日、阿寒町で自然栽培を実践している勝水さんを写真家の基さんとともに訪ねました。勝水さんは、以前にも紹介したとおり現役の家具職人でもあり、その世界では有名な方です。冬は家具製作、夏は自然栽培の農業を楽しんでいます。今回は、自然栽培の勉強のため訪問させていただきました。忙しいなか長い時間丁寧に説明をいただきました(写真▲)。当農園の圃場にも休閒地が4か所所在しています。ほぼ数年間何も栽培せず肥料や農薬など化学物質はもちろん、有機的な物質も入っていない畑もあり、自然栽培を始めるには最高の条件です。私は、10年ほど前に自然栽培に関心をもち試験的に大根を栽培してみました。その後は行っておりませんでした。自然栽培は究極の栽培法であり、農業に携わっているならいつかは挑戦し

てみたい農法です。人のつながりの中で勝水さんとつながり実現できる機会を得ました。来年度から少しずつ実践していきたいと思います。写真▼は、勝水さんの工房で基さんと製作について話しているところ。このテーブルはイギリスの銀行家からの依頼によるものです。①



いもと豆で試験栽培

6月24日、勝水さんからいただいたじゃがいもの固定種「さやあかね」を植えました(写真▼)。時期が遅くなったため、芽がかなり伸びており果たして収穫できるか分かりませんが植えてみました。また、豆の種も6種類いただいたので播きました。ちょうど休閒地で肥料も農薬も数年間一切投入されていない畑なので自然栽培の試験栽培をするには大変いい条件です。うまく芽が出て、収穫まで辿り着くことを願っての作業でした。①



ホッとひととき

VIVA食堂 (美瑛町)



6月20日、隣町的美瑛町の青い池に行く途中にあるグルタン専門店「VIVA 食堂」さんに行ってきました。オーナーの桜井さんは、東京で飲食業に携わっていた経験があり、譲り受けた建物をリフォームしてオープンしました。グルタンの

専門店は珍しいですが、お聞きするとご本人が好きだから始めたとのこと。奥様も週の半分以上は手伝っているそうです。多くの方に好まれ気軽に利用できるお店です。ちなみにこちらでは当ワインを提供していただいています。①

とまの流るるに



長年使用していた大型の人参収穫機を廃品収集業者さんに引き取ってもらいました。先月号の編集後記で詳しく書きましたが、人参栽培の専業農家として長年取り組んできたなかで重要な役割を果たしてくれた機械でしたので、一抹の寂しさもあります。一つの時代が終わった感もありました。①

農園内のワインショップでは、ようやくクレジットカードが使用できるようになりました。たまにお客さまにカードは使えますかと尋ねられるたびに申し訳ありませんと言っていましたが、これからはその言葉を使わずに済みます。うれしい限りです。①



編集後記

6月30日の夕方、久しぶりに降雨がありました。干ばつ傾向で気温も30℃前後で推移したため畑は乾ききっていました。畑にとっては恵みの雨でした。畑だけではなく水田も水があるとはいえ雨による効果は大きなものがあると言われていました。さて、当農園ではというと人参や野菜には待ちに待った恵みの雨でした。しかし、ぶどうにとってはちょうど開花期に入っており、この時期の降雨は受粉に大きく影響を及ぼします。ぶどうの花は、

可憐な本当に小さな花です。そこに雨が降ると落花してしまいます。3年前には開花期の長雨により、収穫量が半減してしまいました。翌朝、ぶどう畑に行き状況を確認にしました。品種間での開花状況に差はありますが、葉が傘代わりになって雨から守られている花が多く見受けられました。ぶどうはぶどうで自己防衛本能とでもいうものを持ち合わせているように思われました。ぶどうのほほえましい姿に私自身が癒された時間でもありました。①

多田農園 通 信

Tada farm tsushin 2021.07



人にもワインにも物語りがあります
創業百二十周年記念
田園ルージュESと
田園ブランESです



有限会社 多田農園

〒071-0529 北海道空知郡上富良野町東9線北18号
Tel 0167-45-5935 Fax 0167-45-6012
info@ninjin-koubou.com <http://ninjin-koubou.com/>



畑の草刈り

ぶどう畑の草刈りを行っています(写真▲)。この作業は9月上旬まで定期的に続きます。通常は、除草剤を使用するのでこの作業はありませんが、当農園では2007年のぶどう栽培以来一貫して除草剤は使用していませんので、刈払機を使って刈っています。除草剤は酵母などの微生物に影響があり、特に野生酵母で自然発酵させてワインを造っているため、微生物に影響が出ないように大切にしなければなりません。①

防草シート

ぶどう畑の根元に防草シートを敷いて雑草抑制などを行っていますが、今年は2019年に植栽したぶどうにも敷きました(写真▼)。草刈りの時にぶどうの根元が分かり、ぶどうの樹を傷つけたり、切ったりするのを予防できます。

この作業は主に就労支援施設事業所の利用者のみなさんが担ってくれています。6月8日にほぼ終わりました。①

杭立て



6月8日から新植したぶどう畑に杭を立てました(写真▲)。いつもは重機のリース会社から0.2立米ユンボを借りていましたが、今回は、空きがなくいつ借りることができるか分からないため、農園にあるバックホーと呼ばれる小型のユンボを使うことにしました(写真▼)。時間はかかりますがうまく立てることができました。①



ぶどうの芽欠き

ぶどうの芽欠き作業が6月5日から始めました。この作業は、余分に出た芽を取り除く作業です。今年は芽吹きも良好でかなりいい状態で芽が揃っています。芽が多すぎると根から吸収する養分が分散し、また太陽の光を十分得ることができなかつたりして良質なぶどうづくりに影響が出ます。秋の剪定時にも枝が多くなると剪定に時間がかかってしまいます。芽欠きは重要な作業のひとつです。6月



26日に終わりました。ぶどうの花が少し咲き始めましたが、初期の段階で芽欠きには影響はありませんでした。①

りんごの樹の手入れ

りんごの摘果

6月10日から、りんごの摘果作業を行いました(写真▼)。昨年も経験しているので作業もスムーズでした。この摘果作業は就労支援事業所の利用者のみなさんが担当しています。約3日で作業を終えることができました。美味いりんごに育ってくれることを願って作業が進められました。また、このりんごはジュースにもなります。①

りんごの高接ぎ

りんごの高接ぎの成功率は、グラニースミスで約80%、シナノゴールドは約30%でした。シナノゴールド

は、元の樹の葉の出方も遅く、遅れて葉が出るのかと思いましたが、6月中旬になってもでないので上手く接ぐことができなかったこととなります。グラニースミスは貴重なりんごになるので、80%の成功は良かったと思っています。品種間でこれだけの差が出るとは思いませんでした。写真▼は一番いいグラニースミスの高接ぎの木です。①



軽トラ市だよ!

全員集合



6月10日、かみふらの軽トラ市のメンバーの集合写真を農園で撮りました。現在、会員数は15名で20代~40代前半の会員が9名もいます。この会は、8年前に地元の農産物をもっと食卓に合言葉に私を含めて4名が中心になって立ち上げた会です。道内外の研修やテント内での直売市を通じて会員相互の信頼関

係を築きながら地元スーパーに直売コーナーを設けるなどみんなで盛り上げてきました。今回は、2か所目の地元スーパーからの依頼により集合写真を撮りました。みなさん忙しいなか昼休みを利用して駆けつけてきました。久しぶりに顔を合わせてみなさん、うれしそうでした。①

120周年記念ワイン完成!

6月15日から創業120周年記念ワインの販売を始めました。赤ワインと白ワインの2種類です。赤ワインは「田園ルージュ ES」でピノ・ノワール、メルロ、カベルネ・ソーヴィニヨンのブレンド。「すみれ、芍薬、ブラックベリー」の香り。アセロラや赤果実香、ししとうの香り。土っぽさやウッディーなニュアンスも。上質な酸、しっかりとしたタンニン。大地の力強さを感じ余韻も長め。」白ワインは「田園ブラン ES」でシャルドネ、バカス、ミュラー・トゥルガウのブレンド。「アカシア、白い花、レモングラス」の香り。ミネラル感たっぷり。蜂蜜、りんご、花梨の香りも。豊かな果実味と豊かな

酸。均整の取れた味わい。余韻も長い。」価格はいずれも1本3,850円(税込)この記念ワインから焼印入りのオリジナルコルクを使用しています。①

